

霊能者（靈感占い師）の正体

除霊の真実

～自力開運への道～

フォーチュンソフト代表

天野雲海 著作

はじめに

除霊 神がかり 憑依 宗教 教祖 霊能者 靈感占い 先祖供養 因縁
カルマ 二重人格者 精神病 劣等感 癌が治る霊治療 お布施 靈感商法 洗
脳 生まれ変わり 転生、こんな言葉に関心がある全て人に役に立つ筆者の除
霊の経験を紹介した書籍です。理論や理屈では霊的現象は解決できないし、分
析もできないし、善霊か悪霊かも判断できません。戦ってみるしかないのです。
戦い方は霊が地球上で生きていたときの実際の様子を聞きだすことです。簡単
なように見えますが、霊は巧妙にそうさせないようにあなたの心の中を探って、
あなたの弱点をついて支配してくるはずですよ。もし、霊的なものに関心がある
ようであれば筆者のこの経験が役に立つときもくるでしょう。内容は個人名が
特定できるようなプライバシーまで踏み込んでおりますので、第三者へ内容を
漏らすことをかたく禁じます。

古代中国の仙人の霊

二十代の時に新入社員として出会った

筆者がまだコンピュータのある企業でサラリーマンで係長をやっていた頃、九州のある地方の町の工業専門高校を卒業した二十歳の青年A氏が入社してきました。筆者の部下となつて、それ以来十年間以上、コンピュータのソフトウェア開発の仕事を指導しました。入社した当時から、彼とは同じ誕生日（12月26日）だったので、お互いに不思議な縁があるのかもしれないと思っていました。

さて、彼の仕事ぶりですが、ソフトウェアの開発という点ではまったく使

ものになりませんでした。能力がないわけではありません。思考が分散するので、彼の書くプログラムは支離滅裂で、あとから誰かが修正しようとしても、なにを意図してそういうふうにするのか、プログラムを書いているのか、分析ができないという状況だったのです。本人になぜ、そういうプログラムになっているのかを聞いても、分からないのですから、他人が分析しようとするのが無理なのです。運命学的にみると、日干が己、月干が丙、年干が甲 という貴賤でいうときれいな貴の命式で、理論的にはすつきりした思考の持ち主のはずですが、現実には頭のなかには、ぐちゃぐちゃでした。田園の横に太陽があつて、その下に大樹がそびえている。美しい印綬星と美しい正官星が天にいらんでいるので、知恵があつて、おりめ正しいと理論上ではなっていますが、現実には、だらしないものでした。

年干の正官は血統がいいとか言いますが、食事の仕方を見ていればお家のレ

ベルはわかるものです。ハシをもって、立ち歩きながらくちやくちやくとしゃべりながら、昼の弁当を食べている姿を見るかぎり、血統の良さなどどこにも感じられず、食事の仕方くらい、親から教わっておけよと言いたくなるくらいだらしないものでした。

この思考が分散し、いつまでも方向が定まらない根源はいったい何だろうとずっと疑問でした。あとで述べるように、母親との関係がその根本原因でしたが、本人はそれに気がついていません。指摘しても納得しないタイプなのでアドバイスできないのです。アドバイスすると、彼は感情的に叱られたと恨みを抱きやすいのです。

それでも十年間プログラム開発の仕事を与え続けていましたが、とうとう彼はVDT症候群になり、コンピュータに向かうことを医者から禁止されてし

まったので、営業部に行ってもらい、ユーザのサポートという仕事をしてもらうことになりました。人当たりはよくみえるので、ユーザ受けはいいのですが、技術を求める厳しいユーザーが多い東京ではやはり使えず、九州人事になりました。九州に転勤になってから3年後、彼はさすがに限界を感じたのでしよう。退職し、もともともっていた霊感体質を活用して、マツサージ師のような仕事をやるようになりました。

婚約者が駆け落ちして全身痙攣

彼の霊感的な体質を目の前で見た最初の事件は、彼の結婚相手だったある女性が他の男性と駆け落ちした瞬間でした。当時、彼はある新興宗教に入信していました。そこで教祖から紹介された女性と婚約したわけです。相手は4歳年上の女性でしっかりした女性でしたが、彼を半人前の男として育成する母性が

あるなら結婚生活もなりたつかもかもしれないと予想しました。しかし、その女性は自分を導いてくれる大人の男性を教祖は紹介してくれると期待していたのです。尊敬する教祖がなんでこんな半人前のガキを自分に紹介するんだと言う怒りが筆者にも伝わってきたものです。彼女は、意思が強く、行動の早い女性でした。さつさと男をつくって、その宗教団体から脱出し、駆け落ちして、彼との婚約は破棄されたのです。その知らせを電話で聞いた彼は、なんと受話器をおくなり、倒れてしまい、全身の痙攣をおこしてしまいました。私は、救急車を呼ぼうとしたのですが、こういうのに慣れた上司（彼の所属する宗教組織の幹部）は、「ほっとけ、自分勝手な思い込みが強いから、それに耐えられないだけのことだから。」と冷静でした。

恨みの体質

その事件依頼、彼は、教祖を恨むようになりました。「よくも、婚約者である彼女を救ってくれなかったな。」という恨みです。これを見て、筆者は、まだこいつは、自分勝手な思い込みと勘違いの思考に支配されていると実感したものです。自分が半人前のガキではなく、大人の強い男だったら、彼女は喜んで彼と結婚したはずなのです。責めるのは、教祖ではなく、自分のはずです。うまくいかない原因を他人のせいにして、恨みを持つという癖は、彼が何十年もかけて習得した悪い癖ですから、簡単には直りません。

靈感マッサージ師としての歩み

さて、そんな彼も、しばらくすると新しい女性を再び教祖から紹介されて、今は結婚して、子供も四人います。子供が4人できる十年間は、彼は靈感を活用してマッサージの真似事をしてお布施みたいな形でお金を得ていたのです。

彼の治療の効果で癌が治ったとか、治ったけれど再発したとか、アメリカからサプリメントを輸入して販売しているとか、試行錯誤やっていたのです。

筆者もその頃は、サラリーマンをやめて会社を立ち上げていたので、連絡をする余裕ありませんでした。会社が軌道にのって、利益がではじめたころ、一日十二時間以上プログラムを開発するという無理がたたってしまい、腰痛、腱鞘炎、などあちこち、体が悲鳴をあげはじめていました。

その頃、カイロ、マッサージ、整体、針、お灸など、あらゆる民間療法を試していましたが、彼から連絡があり、治療をしてくれるというので、九州から来てもらうことになりました。十年ぶりでしたが、彼の誰かを恨む癖、自分は悪くないという癖、ものごとを整理して分析できない癖は、そのままでした。彼の現実の生活を知りたくて、九州まで彼の奥さんにも会いに行ったのですが、

子供の保育園のお金が払えない、小学生の子供の給食費が払えない、と不満をこぼしていました。アパートの家賃も払えないので、奥さんの実家に転がり込んで、生活するマスオさん状態でした。さらに、奥さんのお父さんも彼には頭に来ていて、夜9時になると玄関のドアを施錠して、彼が夜出歩いていると家に入れないようにしていました。彼はそんなとき、車で寝泊りしていたのです。彼の部屋を見せてもらいましたが、酷いゴミ屋敷でした。

彼は、もともと霊感体質のせいか、体のどこの部分が凝っているのか、どこを刺激すればほぐれるのかを察知するのが上手いようでした。また、癌を直せる能力があると言って、その霊能力を自慢していました。

不妊の妻が妊娠

一回のマッサージと整体で二万円くらいは払っていました。そういうつきあいが一年ほど続いたでしょうか。筆者も筆者の妻も四十歳を超えて子供が授けられず、あきらめていたときに、連絡があつて、子供ができないのは妻に光が足りないからだと言ひ出し、二十万くらいの光線治療機なるものを買うことになりました。使つてみると、疲れ気味の妻にはあつていたみたいで、体調がよくなり、子供ができてしまいました。治療を始めた初期の頃は、自分の霊感が、人に役に立つなら、どんどん使つて治療をしたいという気持ちがあつたようです。しかし、もともと、劣等感があり、恨みがたまりやすい根源をもつているため、こういった純粋な気持ちはすぐに悪いほうに変化してしまつたのです。

秘密にしている記憶をほじくり出す

その頃からです。彼がだんだんと、筆者の記憶のなかにあるものをマッサー

ジしている最中にほじくりだしたのは。「十年前にあなたは沖縄に女性と出かけたことがありますね。そのとき、霊があなたに憑いたようです。」「あなたの先祖は沖縄ですね。そのルーツは一部、アメリカ大陸に渡っていて、原住民のインデアンと統合されています。だから、インデアンに奉仕することが先祖供養になる。」こんなことを言い出したのです。そして、なんと卑弥呼の時代からの家系図を筆者のために書いてくれたのです。そのなかには、弘法大師の弟子になったある人物もいたようです。そして、家系図の料金だ、あなたの先祖をあなたに協助さす仕事をしたのだから、と言って、その度に数万円から十数万円程度を請求するようになっていきました。（長い時間をかけて支配してくる）

神がかり的現象

霊感体質がピークに達するにつれて、たくさんメッセージが降りてくるよ

うになり、筆者の家に居候して、それを書き留めるようにと指示するようになりました。そのなかには、雨のときでもワイパーを使わない車、空飛ぶ円盤の設計図、人間のチャクラと太陽系システムの図解、こんなものがたくさんありました。そして、その図面をもつて、メーカーに売り込みに行こうと言うので、飛行機を使って四国から東京へ行つて、メーカーを訪問して、説明をして歩いたこともありました。もちろん、交通費は筆者持ちです。

機械的なアイデアが売れないと分かると今度は、イエスキリストや弘法大師やゼロ（ゼロを発明した古代人）を霊界から呼び出して真実を話してもらいそれを本にして売り出そうと言いました。イエスキリストのお父さんは誰なのか？ 神の子としての認識は本当にあったのか？ 人類の罪を救うために生まれてきたのは本当なのか？ 十字架にかかるまでの本当の経緯は？ イエスキリストが日本で修行をしたというのは本当なのか？ イエスキリストの恋人

は誰だったのか？ 空海が最も秘密にしていた男女のまぐあいの開運手法は何なのか？ こんな当時の筆者が最も知りたかったことを霊界から呼び出して聞いてくれたりしました。覚醒した偉人達は、もう霊界といっても太陽系の外のシステムで仕事をしているので呼び出すのは苦労すると言うので、その度に十万円くらいのお金を払っていました。そして、原稿をおこして出版社に持っていったら商業出版できないかと交渉したこともありました。その出版社は霊界やオカルトに非常に詳しい担当者が出て、原稿を見るなり、「まあそんな説もあるでしょうね。目新しい説ではありませんね。」と相手にされなかったこともありました。

こうやって神がかり的な彼と一年くらい、行動を共にしたのでしょうか。口から出てくることは、どうもたしかに啓示的ではあるのですが、本当に現実的に実現可能なアイデアなのかどうか？は常に疑問がありました。それとも筆者が

気に入るような言葉を筆者の心から盗み取ってそれを靈感とか啓示とかいう演出をしているだけかもしれないと思うようになりました。最近、まともになつた彼に聞いてみたのですが、当時のことは何も記憶にないそうです。

この頃から、彼は顧問料が欲しいというので、彼が販売していた健康布団や健康グッズなどを二百万円くらい買ってあげたこともありました。筆者も、子供ができたのは、彼のおかげという気持ち根底にあったことは確かですが、靈感のある人はそこをついてくるわけです。（知らない間に支配される）

古代中国の仙人が出現

さて、とうとう靈感のクライマックスがやってきました。彼は、食事もせず、水だけで、生活するようになってきました。すると、彼の人格が変わったように

なりました。自分は、古代中国の仙人の「シエなんとか」である。古代の健康法、運命学をすべて習得済みだから、自分に従えばいいことがあると言うのです。正気に返った彼に聞いてみると、自分のなかに確かに、そういう霊が住んでいて、それが自分の思考と感情のほとんどをのっとりてしまうことがある。というのです。たしかに、心の中が見通せるようですから、隠していることが全部、ばれるのです。さらには、隠している欲求もばれるのです。隠している罪悪感もばれるのです。そうやって、次々に当てていくわけですが、こういうふうになると、筆者も彼に支配されるようになってきたのです。

靈感の絶頂にあるときは、一週間もの間、ほとんど不眠で、その古代中国の仙人は、筆者に語りかけ、自分の指導を受ければ金も女もすべてが自由になるということを行い、気がついたら百万円くらいのお金を払っていました。しかし、彼がそのお金を受け取った瞬間に、彼が見せた一瞬の表情に、残虐で傲慢

で支配欲のかたまりのエネルギーがあることに気がついたのです。この霊はまともではないと感じたのです。そこで、もう一週間もほとんど寝ていないので、体力の限界にきていましたが、ここで逃げたら一生負けたままだと決意して、戦うことにしました。

戦い方は、簡単です。あの世で成仏できない人物が霊となつて、生きている人間に憑依しているだけなのです。幸せな人生を送っているはずはないのです。ですから、その古代中国の仙人の「シエなんとか」の家庭環境を聞きました。お父さんは、誰か？お母さんは誰か？友人は誰か？修行の結果、得たものはなにか？恋人はいなかったのか？などを質問したのです。

その結果、孤独で無の境地を目指して修行にあけくれ、恋人も友人もいず、ただ天地創造の神を信じて厳しい修行を生涯おこなって、天国に行くはずだっ

たのに、死んでみると、本当に何も無い宇宙空間のようなどころに行ってしまったと言うのです。無の世界は本当の地獄だと言うのです。一般の人が言う地獄はまだましだと言うのです。そこには戦うべき人や憎みあう人がいます。しかし自分が行った地獄は自分しかいないのです。生き物や生命のあるものがなにもない空間なんだと言うのです。永久に自分しかいないのです。もう絶対孤独と絶対絶望の世界です。それで、そこにはいられないというので、必死になつて憑依できる自分と同じような波動をもった生きた人間を探しだし、ようやく憑依したことが分かったのです。

除霊の瞬間

なんだ、神を勘違いし、宗教を勘違いし、修行を勘違いした孤独な修行マニアだったのね。つまらない人生だったね。こんなことを古代中国の仙人の「シエ

なんか」言った瞬間に、その霊は正体がばれては、もう憑依できないと言って、彼から去っていきました。去っていくとき、これが修行の成果だと言って、竜の踊りを見せてくれました。この踊りをすれば、全身に気が流れ、病気なんか一発で治ってしまうんだと言っていました。また勘違いの踊りなんだろうと思うと、どうでもよくなってきました。

除霊したあとどうなるか？

その古代中国の仙人の「シエなんとか」の霊が去ったあとの彼は、もう抜け殻でした。今までは、その憑依していた霊のおかげで、人を脅かし、人を支配し、お金をまきあげ、女性を自由にしていたのですが、すべては自分の力ではなかったことが分かったからです。彼は、それから仕事を探しはじめました。

現実には、厳しく、彼のような人間に仕事などありません。床下にもぐってシロアリを駆除する業者の下請けのようなことをやっていました。シロアリを駆除する薬で、体もやられたようです。そういう生活が数年も続いたでしょうか。ようやく、自分の内面の問題点を自分で認めるようになったのです。

靈感体質になつた原因

彼の恨みをもちやすい性質の根源は、大嫌いな冷たい母親でした。九州の畜産農家に生まれた彼は、小さい頃から、家の牛の世話をさせられ、それが嫌でたまらなかつたそうです。母親に愛されず、勉強もできず、劣等感をずっと頂いたまま、成長したのです。高校生のときには、神をもとめて自転車で日本中のお寺や神社をまわつたそうです。社会人になったら、新興宗教にはいつて熱心に活動したのです。母親に対する恨みは、そのまま女性に対する恨みになつ

ており、女性の肉体を自由に捨てるといふ行動になったわけです。劣等感
は、そのまま自分よりも職位が上の人間を、霊感で支配するといふ行動になっ
たわけです。まさに、古代中国の仙人の「シエなんとか」の人生とまったく同
じではありませんか。憑依しやすいわけです。

子供の頃に心に傷を負った人は、感情のエネルギー（アストラル体）をしつ
かりと包んで外に漏れないようにしているエーテル体が破損しているため、感
情エネルギーが漏れっぱなしになっています。だから、その漏れたエネルギー
で、他人の感情エネルギーに侵入できるので、相手の心の中が分かってしま
うのです。だから、霊感体質というのは、実は精神的に傷をおっている人がほ
んどなのです。決して、すばらしいことではないし、能力があるわけでもない
し、心に傷をもった障害者と言ったほうがいいのです。

誰からも愛されずに育つてしまうと、子供は人間からは愛されれないと思ってしまつて、天地創造の親なる神の愛を求めてしまうので、霊感体質になつてしまふだけなのです。この霊感の仕組みを知っていれば、世の中の霊能者なんて怖くもなんともなくなります。TVで有名になつた、ある霊能者が筆者の事務所に来て、みてあげるといふので見てもらいました。白い服を着た老人が霊となつてついているので、腱鞘炎が治らないとか、いろいろ言っていました。私は霊能者に金は一円も払わない主義で霊能者の言うことも信用しない主義だと言ひ、なんでそんな霊感体質になつたのか、あなたのトラウマを話してごらんとしようと、さっさと逃げるように帰つて行つたこともありました。

ある女性との出会いが彼を変えた

彼はその後、シロアリ駆除の仕事もやめて、やっぱりマッサージ師のような

ことをやっていますが、靈感は使っていません。本人は封印していると言いますが、体質はそのままです。その彼にある出会いがありました。体重120キロの超肥満体の女性からマッサージを頼まれたのです。相変わらず自分はそんなじよそこらのマッサージ師とは違って、いろいろな病気を治せるといった自慢話をしてしているので、噂が広まったのでした。その超肥満体の女性は、もう歩くことさえできず、死を意識していたようでした。あなたなんでも治せるなら、お金は払うから治しなさいよと言われ、彼は逃げ出すわけにもいかず、3ヶ月かけて、治療をしたそうです。その期間、彼はあんな、こんな私を抱けるのか？と脅され、彼も必死でその女性を抱いたみたいです。

霊能力を使って、女性を自由にしてきた罰が下ったと本人は覚悟したそうです。また霊能力を使って治療が上手いという傲慢さを打ち砕くための天が与えた試練だと理解したそうです。ここで、逃げたら、もう一生自分の人生はダメ

になると思つて、命がけで治療したそうです。そうこうするうちに、3ヶ月後、体重が80キロまで減つて、杖をついて歩けるようになったのです。今は、その女性は、彼の忠実なスタッフになり、農家からJAに出荷できない形の悪い野菜を仕入れて、安く宅配をするサービスを行っています。筆者も何度も会つたことがあります。彼のような劣等感がいつまでも除去できずに、恨みがたまりやすいタイプにはピッタリの女性でした。

霊能者や靈感占い師に支配されないために

以上が筆者の経験した悪霊を追い出したすべての実話です。この経験はとても貴重で、それ以来、どんな霊能者と会つてもなんとも怖くなくなりました。それよりも、出合った霊能者が、靈感体質になつたきつかけを知りたいと思うようになり、霊能者を質問せめにするようになったものですから、向こうから

寄ってこなくなりました。

また、自分の心の欲求に素直に従うようになりました。欲求を隠して生きていると、霊感体質（今は非常に多い）の経営コンサルタントや治療関係者に、簡単に足元を救われることがこの経験を通して、体全体で分かったからです。霊感占い師に、有名な芸能人がはまっていくのも同じです。隠された欲求、隠された罪悪感、こんなものがあると、餌食になってしまうのです。男性だったら、女性と会った瞬間に、私は女好きですと言うくらいオープンさがあつてちやうどいいくらいなのです。女性も四十歳を超えたら、男性と会った瞬間に、あなた私を口説けるだけの男気があるの？あなたが命かけているものは何なの？女はね。命かけて国を守る男には愛を注ぐものなのよ。女を口説く前に、命かけて仕事しなさいよ。というくらいのオープンさがあつてもいいくらいです。

これくらい素直に欲求に従って生活していると、不思議なことに変な霊的体質の人との出会いはまったく無くなってくるものです。変な奴と出会うということは、まだ自分のレベルもその変な奴と似たり寄りだと思ったりだと思ったりがいいです。出会いは運命の神が仕組んでいるものですから、出会う相手が変だと思ふなら、間違いなく自分も変なのです。筆者の場合、数年前までは随分変な奴が訪問してきたものですが、今はまったくそういう連中とは出会いがなくなってしまうって、たまには変な奴と出会ってみたいなと思うくらいです。

この靈感体質の彼も、筆者が北海道に移住して健康な生活を送っているということを知ると、縁が切れたように連絡がなくなってしまうました。つけいる入り口がなくなっただということなんでしょう。

霊能者に憑依している霊を除霊した実話でした。

国会議員の秘書

ある女性霊能者

姫井由美子という岡山の国会議員がいました。今から数年以上前でしようか。霊感占い師に洗脳されてTVをにぎわせたことがありましたが、このときの霊感占い師とは、もう二十年前から、当社と取引があつて、何回かセミナーをしたこともありました。

その女性の霊感占い師の本名は分かりません。会うごとに、名前が違う名刺を渡されるものですから。二十年くらい前は、広島に住んでおり、筆者は愛媛に住んでいましたから、車で二時間もかからない距離でした。一年に何回か、商品をまとめて買うからセミナーもしてよという依頼があるので、彼女の事務所は何回か通ったことがありました。

いつも、裕福そうな女性がその霊感占い師を頼って相談にきていて、いい顧客を集めるのが得意な人だと感じてはいました。しかし、そういった富裕層をひっぱる源泉がなんなのかは当時は分かりませんでした。その霊感占い師も霊感があるとかは、筆者に一言も言わないし、そんな素振りも見せないからです。

ただあるとき、セミナーのために事務所を訪問したら、そこには三十歳前後の美人が数名いました。この美人達にセミナーをして欲しいというのです。当

時は動物占いが流行していて、動物占いを使って、彼女達を人診断のプロに仕立て上げ、企業の秘書として派遣するビジネスを展開したいというのが目的でした。4時間くらい、四柱推命の命式の構成と、十二運星と動物占いの関係性を講義したのですが、はつきりいつてまったく理解の悪い女性達でした。秘書が務まるとは思いません。おそらくは、秘書という名前の愛人派遣ビジネスなんだと思います。それくらい、色気のある女性達で、おもわずむしゃぶりつきたくなるような体つきをしておりました。男なら、こんな女性を愛人にできたら、それはとても幸せかもしれません。その靈感占い師のお金の儲け方を始めて観察できて、こんなやり方もあるんだなと関心したものです。

　靈感占い師から次に連絡があったのは今から十年前です。東京都内のあるIT企業にいるから来て欲しいという依頼でした。なんだろうと思っていくと、人生ゲームのようなソフトを開発するから手伝って欲しいと言うのです。その

IT企業の社長はどこかの大企業の御曹司のようで、親から金を出してもらってIT企業を作ったのです。こんなぼんぼんでは、霊感占い師の言いなりなんだろうなという予感がして、まともにはつきあえないけど、面白そうだからつきあってみるかという思いでしばらくは取引しました。なんでも、数年先は上場して何十億円もの上場利益を出すのが目的のようでした。あなたも役員として参加しないかというお誘いでした。しかし、筆者がサラリーマンの頃、実は勤務していた3つの会社がすべて上場するという現場を経験していたのですが、このときの経験が、こんな程度の経営者では、証券会社は相手にしないだろうなという直感（本当の直感は経験から生まれる独自法則）が働きましたので、お断りした結果、それきり連絡が途絶えました。

霊感のある人って、人の欲望の根源が見えるので、マネーの欲に取り付かれた人を簡単に操作できてしまうのです。サラリーマン時代に何度も上場を経験

した筆者からみれば、子供騙しなのですが、経験のない人からみればすばらしいビジョンに感じてしまうのですね。

さて次に連絡があったのは数年前のことです。姫井由美子という岡山の国会議員の秘書になる半年前のことです。赤坂に事務所を開設したからセミナーに来て欲しいというので、伺いました。すると、赤坂の料亭の3階部分に事務所を借りており（どうも料亭の主人にうまいこと言っただけ借りたようです）、そこに寝泊りしているようでした。例によつて美人（前回と違って巫女さんの雰囲気美人）で今回は靈感のある占い師達が三人いました。占い師といっても、やっぱり四柱推命の命式を理解できない美人達です。十干も十二支も理解しない。通変星なんてもう無理。やっぱり十二運星だけの動物占いでいいというレベルです。振り子をふりまわして、占うというスタイルを今回は、やつておりました。セミナーが終わったあと、パーティがあるので、今度参加してく

ださいと誘われました。

筆者のビジネスを拡大できる女性を紹介するというのです。数名の候補がいて、A子さんはどうか？と言って振り子をふってダメね。じゃあB子さんはどうな？と言って振り子をふってうんOKね。じゃあB子さんにするね。と言われました。

さてパーティへの参加ですが、当時取引先だったある大手ゲーム会社の部長も連れていきました。同じ四国出身ということもあり話しがあったからです。参加してみると、やはり岡山と広島の県会議員が2人、他に依存心の強そうな男（全員が上場企業の管理職でした）が十数人、癖のありそうな初老の男性が1人（神社の宮司でした）、そして美しい女性達が数人でした。飲めや歌えの騒ぎです。その靈感占い師から、あなたはこの女性と相性がいいから仲良くし

なさいといつて、ハグハグさせられ、写真を撮られました。

この瞬間、のちのち筆者が有名になったらこの写真を脅しに使うんだろなという予感がありました。週刊誌にそういった写真が載るくらい有名になればたいしたものだというくらいに構えていました。実際、こういう霊能者は人の弱みや隠しておきたいものを人の心に入り込んで盗み取るのが得意です。どんな女性と抱き合っているお馬鹿な天野雲海を写真にとつて週刊誌に売り込んで筆者を有名にしてくださいというオープンな心があれば霊能者は支配できないのでちよっかいを出してこないのです。

その女性と十分くらいは話したでしょうか。学校の先生だと言うのですが、公務員らしくどうも頭の回転が悪く、話しが前に進みませんでした。およそ自分でユーザーを開拓して当社の占いを広めるタイプではない思つて、それ以来

連絡はとっていません。自分で仕事を見つけないと使えないのです。何をすればいいんですか？という質問が出るようではただのアルバイトでしか使えません。振り子を使った靈感占い師が相性がいいからと言って紹介してくれるんだからどんなに素晴らしいのだろうという期待は見事に外れました。

そこに集まってきた上場企業の管理職達とも話してみたのですが、これじゃあ皆リストラされるだろうなと思われるような連中ばかりでした。唯一、神社の宮司だけが、この靈感占い師にはある強烈な動物霊がついている。それが一体なんなのか？が興味があって、来ていると打ち明けてくれました。一緒に連れて行ったある大手ゲーム会社の部長は、この騒ぎに恐れをなして、早々に帰っていきました。なんとも、小さい男です。今は、リストラされて算命学の占い師としてデビューして有名になっていますが。

そのパーティーから一週間後、ランチでも一緒にしようとその靈感占い師が言うので、赤坂で焼肉をご馳走になりました。普段のその靈感占い師は、もの静かでした。あの騒ぎの中心だったとは想像もできません。どうも、本当は臆病で小心者でいつもびくびくしている劣等感の固まりではないかというのが、筆者の見方です。自分の力だけでは、人を引っ張れないので霊を憑依させて、その霊の力を借りるという構図は、もと筆者の部下の靈感マツサージ師と同じです。だから、同情心がわいてくるのです。

幼い頃の様子を聞いてみました。両親とも他界しています。父親は事業家だったらしくビルをいくつか持っていて、その賃貸収入で生活には困らないということでした。つまり、今だに死んだ父親から養ってもらっているという劣等感があることは確かでした。父親との縁が良ければ、「お父さんビルを残してくれてありがとう。そのお金で自分は自分の実力の範囲で楽しく生きていき

ます。」という思いだけがわいてくるはずなのです。

父親の遺産でしか生きていけない自分を許せないのです。だから寄生虫のように誰かにひつついて宿主を食らうことでしか生きていけないかわいそうな人種です。若い頃は、国会議員の愛人もしていたようで、その国会議員と会わせてもらったこともあります。しかし、こんな男の愛人なんかやっていると精神と母性を破壊されるだろうなと思うような残忍でウソつきで不誠実で権力だけを追いかけているような奴でした。もしかしたら、この男の愛人をしている間に、エーテル体が破れて霊感体質になったのかもしれない。エーテル体が破れた女性に母性（人を育む愛情）はありません。

そんな霊の力を借りなくても、今の素のあなたで充分生きていきますよと元気づけたものです。しかし、それから半年後、なんと姫井由美子という岡山の

国会議員の押しかけ秘書になって、またまたくつき虫をやっていたのです。

あれから今日まで、連絡はありませんが、どこで何をしているのでしょうか。自分の内部にある劣等感の根源を切り開いて、膿を出さない限り、彼女の幸福はありません。

カリスマ靈感整体師

このカリスマ整体師の事務所に、筆者のサラリーマン時代の友人がHPの作

成成という仕事で出入りしていて、プログラム部分が分からないから手伝って欲しいと依頼されたのが、出会いの始まりでした。当時は、六本木に整体事務所があり、私も整体をしてもらいましたが、確かに一発で直るのです。その整体師のところに行くと、腰が伸びて身長が二センチも伸びます。腕も三センチ伸びて腱鞘炎の痛みもなくなります。大企業のトップも通うだけのことはありました。

しかし問題は、効果が三時間しかもたないということです。だから、毎日通わないとなりません。一回行くと三万円です。月に十回くらい行ったことあるので、毎月三十万くらいかかっていました。通っていくうちに、これは整体の技術ではないと思うようになったのです。この頃には、霊能者にはすっかり慣れきってしまったって、霊感を使っているでしょう。その霊感がある根源はなんですか？と問い詰めるような質問をしたのですが、カリスマ霊感整体師は

回答しませんでした。自分の正体がばれそうな相手になると普段は口達者な彼が黙ってしまうのです。

そこでスタッフに聞いてみました。スタッフはそのカリスマ靈感整体師を崇拜しているのです、なんでも話してくれます。左右の肢の長さが違うことで靴はオーダーメイドしていること。それは小学生の頃の内じめによる心的障害から来ているということ。お父さんは韓国で事業をしている成功者だということ。以前はトラックの長距離運転手をしていたこと。こんなことを話してくれました。

本人は整体の技術は日本一と言うのですが、何度も治療なるものをうけてみて、これは靈感を使った筋肉の麻酔だと言うのが結論です。西洋医学の医者に行くと、腱鞘炎の治療は筋肉を麻酔するか、筋肉を切るという手術をします。

それで、強制的にゆるめるのですが、それと同じなんです。麻薬のように一時的な効果しかありませんから、依存症（これが劣等感をもった靈感体質の人の目的）になってしまって、毎月何十万も払うことになるのです。今までの経験もあって半年くらいでカリスマ靈感整体師の靈感ビジネスの根源を知ることができました。本人は正体を探られたくないので何も話しませんが、おそらくかなり強い霊を憑依させているはずです。

自力開運と開運乗馬

筆者の腱鞘炎が治らないのは、結局、仕事のやりすぎなんですから、仕事を变えるしかないのです。いつまで、パソコンの仕事やっているんだというのが天の声なのです。それで、思い切って、同じ開運でも、開運ソフトから開運乗馬へと転向したわけなのです。自分の体は自分で治すのが基本です。今は自

力整体というのをやっています。自分の体重を使ってやるのですが、これがものすごく辛いのです。できればやりたくないのですが、やると見事に回復します。誰かに治してもらおうという気持ちはもうなくなりました。

運も自力開運が基本です。そのために乗馬というスポーツが最適なのです。人間関係は適にごまかせても、馬関係はごましができません。草食動物である馬はだれかに依存したい動物です。騎乗者がその役目を果せない器の場合、馬は不安になつて挙動不審になります。強い意志と育む愛情と理想を馬に要求するリーダーシップと一度やりだしたら死んでもやり遂げると言う気迫がないと馬は人間を主人として認めず従ってきません。

- ・ 誰かに自分の問題を解決してもらいたい。
- ・ 誰かにお金儲けの方法を教えてください。

- ・ 誰かに真理を教えてもらいたい。
- ・ 誰かに異性を紹介してもらいたい。
- ・ 誰かからお金をもらいたい。
- ・ 誰かから仕事を分けてもらいたい。
- ・ 周りから非難されることはやりたくない。

こんな気持ちがある限り、馬は従ってきません。そして、
霊感体質の人の餌食になることでしょう。

- ・ 誰かの問題を解決してあげたい。
- ・ 誰かにお金儲けの方法を教えてあげたい。
- ・ 誰かに真理（経験からくる法則）を教えてあげたい。
- ・ 誰かに異性を紹介してあげたい。
- ・ 誰かにお金を投資したい。

・誰かに仕事を分けてあげたい。

・周りから非難されても一人でやりとげる。

こんな気持ちがある限り、馬はあなたを主人として認め常にあなたの指示を待っているようになります。「強いものに従っていれば安心だ」、これが馬の至福なのです。そして、馬を至福にさせることができる強くて愛情深い人は、霊感体質の人の餌食になることはありません。仕事も各分野で超一流のレベルのことをやっています。

支配欲が靈感の根源の人 愛情が靈感の根源の人

まともな霊感を使っている愛情のある人も稀にいますが、多用することはありません。人に言いふらすこともありません。また、どうしても仕方が無いときだけに使いますが、決してお金をとりません。目を見ればとても穏やかです。

支配欲があると目が異様にこわばっていますから、その違いはすぐにわかります。お金をとりだしたらもう悪霊だと思っていていくらいです。最初は善霊（もしかしたら善霊のふりをした悪霊）かもしれませんが、お金を取ることにより傲慢になってきて悪霊がとりつくように変化するからです。

少し霊能力がついてくると人を治療することに快感を感じてきます。そして自分は人のためにやっていると見事なロジックで本心を欺きます。本当は人を支配することの喜びを得たいだけです。（理論やロジックは悪霊の正体をあばくのには役にたちません）やがて、自分の支配下になれと言わんばかりの言動になってきます。

三人の霊能者を紹介してきましたが共通点はここです。相手を支配したいのです。ハッキリ言うとう劣等感のうさばらしなんです。三人とも劣等感の塊が根源にあります。だから三人とも、やたらに組織をつくりたがりです。一人で

行動することができないのです。

まともな霊感体質の人は、組織を嫌い一人で行動します。もし治療などをすることがあっても、自己防衛の意味でお金を取らないのです。日本一の資産家、齋藤一人（漢方薬局経営）さんももともとは霊感占い師でしたが、それで金をとったことはありませんでした。お金をとるのは直感で生み出した健康食品という商品です。なぜ一人という名前なのか？他人に依存せず、甘えず、一人でも生きていけるといふ自立性と自助の精神がその理由だそうです。自立性の精神があるから、他人を助けることができるのですね。

こんな挙動の人には注意

三人の霊能者の共通した点が相手を支配したいという劣等感のうさばらしで

あることは説明したとおりですが、これを見抜くには時間がかかります。そこでもっとわかりやすい現象を説明します。

分かりやすい言動は、いつもあれやこれやで忙しくしていることです。もしなにもすることがなかったらわざわざ簡単な障害をつくりだしてそれを解決することに熱心です。障害がなければ何度も同じ新聞を読んでいます。静かに穏やかにしていることができないのです。いつも緊張したマインドが続いています。その逃げ道がお酒とセックスです。しばらくの間は我を忘れて落ち着けるからです。

次のポイントは自分を騙しているという点です。自分の醜さ、自分の暴力、自分の愚かさ、自分の無能さを認めていないということです。一生懸命に自分を美しくみせようとすることに熱心です。「自分は阿呆だ」と言う霊能者は会ったことがあります。自分の真実を認めず自分を騙し続けて生きているので、常に緊張するしかありません。だから、忙しくするしかありません。自分を騙

して生きているので、相手を騙すことにも抵抗はないです。

次のポイントはエゴが傷つくのを恐れているということです。自分の支配下にあると思っている、従業員、部下、スタッフ、子供、配偶者、自分に依存している顧客などから非難されることを嫌います。もし非難されようものなら全力で相手を打ち負かそうとします。劣等感を刺激されエゴが傷つくのを恐れているからです。他人から非難されても、「そうかそんな見方もあるのか」どれどれ、自分で自分の内面をもっと探ってみようかというくらい知恵深く対応している霊能者など会ったことはありません。

新しい時代に必要とされる直感

真の直感を養うための鬼十訓

- 一、仕事は自分でつくること 人からもらわない
- 二、仕事は先手でせめること、人の真似をしない
- 三、おおきな仕事に取り組むこと、目の前の利は無視
- 四、難しい仕事を狙うこと、自分が進化する
- 五、取り組んだら殺されても放さない覚悟
- 六、周囲を引きずり回せ 周囲に影響されるな
- 七、計画をもて
- 八、気迫をもて やがて自信になる
- 九、頭は24時間フル回転 一分の隙もダメ

十、トラブルは進歩の母である

日本の古代神道の教え

・成長するコツ

バランスをとるな、バランスをくずせ

・滅亡

無計画と無気力の繰り返しが滅亡

・男をあげるコツ

経験と責任の繰り返し

・結果を出すコツ

探求と人との縁の繰り返し

・発展のコツ

いいこと と 悪いこと の繰り返し

・生きるコツ

信じること と 攻めること の繰り返し

・女の価値

美しくあっても愛嬌と愛情がなければ価値はゼロ。

男を立てさせてこそ女の価値がある。

・男の価値

頭がよくても度胸がなければ価値はゼロ。

常に当たってくださるの気迫が男の価値。

・和とは

天意に従う裏づけのある情理の一致。

全ての事象を直接観察し推論能力が
不要の段階。迷いと無縁の世界。

